
レガシイ ~キボウノヒカリ~

百合型-06S

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

レガシー～キボウノヒカリ～

【NZコード】

N2772Q

【作者名】

百合型 - 065

【あらすじ】

魔法育成学校に通う主人公ヒカリの物語です。

プロローグ

私は幼い時、母を亡くした。
そして父も

「ヒカリ…すまない」

ただその一言を残して、理由も告げずに私のもとから去つていった。
私はまだ今日会つたばかりの女の人に抱き抱えられながら、見送つた。その時私は泣いていたのかは覚えていない。ただ、多少髪の短い父の後ろ姿は今でも覚えている。

（数年後）

「ヒロが今日から貴女の通う学校ですよ。」

「わあ～」

係りの人に案内されたヒカリは思わず簡単の声を上げた。

「寮やその他の施設は後で案内します。とりあえず、貴女のクラスに行きましょうか。」

「はい！」

（お母さん、見てしますか？　私は今日から遂に学生生活がスタートします！）

沢山の希望と少しの不安と共に、ヒカリは学生生活の第一歩を踏み出した。

第1話

「2年生としてこの魔術育成学校に来ました、ヒカリです。今まで孤児院に居ました。こんな同じ位の人達がたくさん居る場所は初めてなので、慣れないこともありますがどうぞよろしくお願ひします！！」

「ゴンッ！」

そう言つて勢いよくお辞儀をしたヒカリは、思いつきり頭をぶつけた。

レガシイ 学園編

「いい加減静かに！ ヒカリさん、席はあの空いてる左端の席に座つてもうえむかしい。」

先ほどの珍事に盛り上がるクラスを静めた先生は、やつれてヒカリを席に案内した。

「それでは授業を始めます。」

「うしてヒカリの魔術育成学校の生活が始まった。

ところで、この魔術育成学校について少しだけ説明を。

この世界には魔術を使える者とそうでない者が居る。この学校にはもちろん魔術が使える者のみが入学出来る。この学校に入学するためには2つの方法がある。1つ目は、通常の魔術試験を受けること、2つ目はスカウトされることだ。ちなみにヒカリはつい先日、孤児院に居るところをスカウトされた。またヒカリが転向してきた2年生は13～14歳の男女が通う学年である。

授業の間の休み時間に転校生がクラスメイトに囲まれ、質問攻めをされることはよく有ることである。ヒカリもまたその例から外れなかつた。

「今まで居た所ってどんなところ？」

「好きなテレビ番組とかある?」

「部活は何に入るか決めてるの?」

「あ……えと……」

お決まりな質問攻めに少し困り顔なヒカリ。すると、そこへ長身の人が少し呆れ顔で現れた。

「あーはいはい、転校生さんにお困りじゃないかい。そんなに質問攻めにするんじゃないの。一人ずつにしな。」

長身の女のは一瞬でこの場を治めた。

「あ……あの、ありがとう」やれこれますー。」

もつその場を去りつとした長身の女のに、ヒカリは声をかけた。

「ん? 良いんよ、良いんよ。ヒカリちゃんやつけ? あたしはアカネ。呼び方なんかどうでも良いんだけど、皆からは姉貴って呼ばれてるから、そう読んでくれると助かるわ。あ!あと、寮だと多分隣の部屋だったと思うわ。じゃ、よろしくー。」

アカネはそう言つと、忙しそうに何処かへ去つていつた。
優しい人だったなあ、とヒカリが思つたのも束の間、質問攻め再開の「ゴングが鳴つた。

「授業終了」のチャイムが響く。

「やつと終わつた～。」

初めての学校での1日にヒカリは少し疲れ気味のようだ。そこへ朝ここまで連れてきた係りの人が来た。

「授業お疲れさま。それでは今日からあなたが暮らす寮まで案内します。こひびく。」

歩いて5分、ヒカリが過ぎる女子寮の部屋の前に着いた。

「寮は2人で1部屋です。ルームメイトには部屋の前で待っているように言つたんですが…。まあいいや。部屋の中へどうぞ。」

そう言わると、ヒカリはドアをゆっくりと開けた。そこでヒカリは自分の目を疑つた。そこには本を読んでいる、ヒカリと同じくらいの身長で髪の長い女の子が

宙に浮いていた。

ドアが空いたことに気付いたその子は顔だけこじりながら向かた。

「よつじん、ヒカリさん。私はシオリ… ようじくね。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2772q/>

レガシィ～キボウノヒカリ～

2011年1月26日12時29分発行